

勢多だより No.72 (2006.6.30)

著者	「勢多だより」編集担当者会議
発行年	2006-06-30
その他の言語のタイトル	Seta dayori No.72 (June 30, 2006)
URL	http://hdl.handle.net/10422/1298



SETA DAYORI No. 72

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

メインテーマ：「新入生歓迎号」

トピックス

- ・平成18年度入学宣誓式 1
- ・平成18年度新入生紹介 2
- ・先輩からのメッセージ 5

新任教員紹介

- ・3月1日付 眼科学講座 西田 保裕 助教授 7
- ・4月1日付 病理学講座 後藤 敏 教授 8
- ・4月1日付 地域生活看護学講座 川井 八重 助教授 9
- ・4月1日付 治験管理センター 中川 雅生 助教授 10
- ・4月1日付 基礎看護学講座 百田 武司 講師 11

キャンパスライフ

- ・第31回浜松医科大学との交流会 12
- ・平成18年度新入生研修 14
- ・リーダーズ研修 18
- ・保健師・看護師・医師国家試験の結果 19
- ・ボランティアによる霊安墓地清掃 20
- ・サークル紹介 21
- 美術部 21

インフォメーション

- ・第29回解剖体慰霊法要 22
- ・平成17年度卒業式 23
- ・平成17年度学位授与式 26
- ・平成17年度学位論文学長賞 27
- ・西門バス停の移動、病院玄関へのバス乗り入れ 28

編集後記（今本編集長）

トピックス

平成18年度 滋賀医科大学入学宣誓式

平成18年度の学部及び大学院の入学宣誓式が、去る4月4日(火) 午前10時から本学体育館において挙行され、学長から次のとおり告辞がありました。

告 辞

ご来賓の皆様、ご父兄の皆様、また教職員の皆様、本日はご多忙の中、平成18年度滋賀医科大学入学式にご出席を賜り、まことに有り難く存じます。

医学科、看護学科の新入生諸君、滋賀医科大学へのご入学おめでとう御座います。また、これまで諸君を支えてこられたご両親、ご家族の皆様にご心よりお喜び申し上げます。新入生諸君には、これまで受けた多くの方々からのご支援、ご協力を忘れることなく、皆様の期待に応えるべく勉学に励んで下さるよう願っております。特に医学の進歩は目覚ましいものがあり、膨大な情報量が蓄積されつつあります。生半かな気持ちでは十分に消化し、身に付けることは出来ません。また、社会の医療人を見る眼は益々厳しくなっており、単にテストに受かっただけの医師、看護師が評価されるような時代ではありません。中身が評価される時代であります。強い気持ちで勉学に取り組んで下さい。

大学院博士課程、修士課程へ進学された皆様、ご入学おめでとう御座います。生命科学の一分野である医学は近年大きな展開を見せており、文理融合の統合的分野である看護学の重要性は益々高まっております。それぞれの分野で新たな1ページを創る気概を持って研究に挑戦され、社会に貢献する成果を上げられるよう祈念しております。

滋賀医科大学は32年前、地域の医療を支える人材育成を目的に設立されました。これまで、3千名を超える医師、看護師、保健師を社会に送り出し、地域医療の向上に、また医学、看護学の発展に貢献して頂いております。彼らの多くは滋賀県及び近隣府県で活躍しており、本学設立の目的が果たされつつありますが、なお充分とは云えません。2年前、国の組織から離れ独立した法人組織となった本学は、地域の特徴を生かした運営を心がけておりますが、学生諸君にも、在学中から積極的に地域の特性を知

学長 吉川 隆一



り、人々と交わり、地域医療に貢献する意欲を高めて下さるよう期待しております。

さて、景気回復の影響か、最近新規採用者を増やす企業が多くなっているようですが、そのことを伝える新聞記事の中で、採用選考に際して企業側が重視する応募者の要素、資質として「コミュニケーション能力」を挙げた企業が圧倒的に多かったとあります。企業活動にとって、社員同士や関係企業との意思の疎通が重要であることを示唆しております。そのため、「コミュニケーション能力」を身に付けた人材を求めているわけです。

医療の現場でも同様であります。様々な職種の間が働く場では、互いの間で十分な意思の疎通をはかり、すきのない連携プレーがなされなければなりません。更に、患者サイドに、病気の原因や症状、治療法などを分かりやすく説明し、患者さんやご家族が十分に理解した上で、判断を下せるように努めることが求められます。異なった職業、異なった価値観、異なった世代の患者さんと意思の疎通を図ることは必ずしも容易ではないでしょう。しかし、患者さんやご家族の理解を得て、最適な医療を提供するためには「コミュニケーション」の技を身に付けることが必須であります。医学、看護学の専門的な知識と技術を習得するのみならず、これらを患者さんに間違いなく伝え、届ける技をも是非習得して下さい。

新入生の諸君には毎年「入学に際しての決意書」を提出して頂いておりますが、入学時に抱いていた夢、熱い思いが述べられています。こうした夢を今後とも持ち続けると共に、多くの人々から信頼される医師、看護師となるべく精進されるよう、また世界に挑戦する研究者へと成長されんことを祈念し、学長告辞といたします。

平成18年4月4日

先輩からのメッセージ

新入生のみなさんに先輩から歓迎の熱いメッセージを頂戴いたしましたので紹介します。

医学科 第6学年 入川 直矢

皆さん、ご入学おめでとうございます！

はや数ヶ月がたち、大学生活に、また授業に関しても慣れて(要領よくされている方も増えて)来たのではないのでしょうか。

この場では「授業には絶対出なさい!」などと言うべきなのでしょうが、皆さんも多忙でしょうし、(自分のことを棚には上げられないので)、度を過ぎないようにだけ気をつけてヨロシクやって下さい。

でも、あれほどの先生方の講義を受けられる機会はきっと学生である今しかないでしょう。いわば大学生の特権です。だからもし、「別に今日は帰ってもすることないけど、だりいから帰るかあ」なんて日があっても、グッと踏みとどまって出席してみてはいかがでしょう。絶対、決して無駄にはならないと思いますよ(もしかしたら目からウロコに遭遇するかも)。

勉強と遊びもバランスが大事!どうか有意義な4年間、6年間にしてくださいね。



筆者中央

医学科 第5学年 窪田 成寿

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。

入学した頃の緊張感も解け、大学生活が楽しくなってきた頃ではないのでしょうか。

今年で入学5年目の私が最近、つくづく感じるのは、やはり大学での6年間というのはとても短いということです。その限られた時間の中で、自分が満足できる学生生活を送るのは、とても難しいと思います。

勉強も大切だと思いますが、今のうちに自分のやりたいことをやって充実した学生生活を送っていきましょう。遊べるのは学生のうちだけですから(泣)。



筆者前列中央

医学科 第4学年 岡山 千尋

4回生のイベント(?)といえは。

まずは夏の自主研修。研修期間は夏休みの4週間ほどで、研修先はあらかじめ提示される一覧から選ぶのが基本です。でも行きたい所があるならぜひ交渉を!(勧めて良いのかは知りませんが/笑)私は一覧にない他大学にかけあい、受け入れてもらえることになりました。自分がやりたいことは諦めないで、相談し、動いてみてください。

そしてもう1つ。4回生は学祭の実行学年です。10月まであと4ヶ月。なかなか忙しく、前途多難な雰囲気は漂うけれど、ゼロから計画を立てていくのは楽しいし、やりがいもあります。

学生でいられる期間は長いようで短いです。

私も気がつけば4回生でした。でも1回生の皆さんはまだ、やろうと思えばまだなんでもできる学年です。「あーしときゃ良かったなあ」なんて後で思うくらいなら、毎日毎日にめいっぱいやりたいことを詰め込んで、疲れ果てるくらいの日々をぜひ楽しんでください。



筆者右から3人目 当時の新入生研修から

医学科 第3学年 林 亜揮子

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。そろそろ大学生活にも慣れてきた頃でしょうか。

レポートが仕上がらなくて授業中駆け込んだMMCで、今まさに大学生活の自由を満喫している1回生に出会えると、ちょっとうらやましく思ったりします。充実した学生生活を過ごしてください。



筆者左から2人目 当時の新入生研修から

医学科 第2学年 朴 正 勝

入学して、もう一年が経ちました。あっという間の一年でしたが、色んなことがありました。その中でも一番印象に残っているのが西医体です。私はラグビー部に入っているのですが、その仲間たちと過ごした3日間是一次戦敗退という残念な結果に終わったものの、最高のときでした。ラグビー部では西医体で6回生は引退です。今の6回生は尊敬できる大好きな先輩。大好きな彼らと、大好きなラグビーを少しでも長くできるよう、今年は西医体で優勝したいです。一回生の皆さんも一年間色んなことをして、熱くなれる何かを見つけてほしいと思います。



筆者右端 昨年の新入生研修から

看護学科 第4学年 浅山 真悠子

入学おめでとうございます。

「学生生活は本当に短い！」これが最終学年になっての私の感想です。これからは自分で自由にできる時間が増えると思いますが、その時間をいかに有意義なものにするかは自分自身にかかっています。大学の枠を越え、様々な年齢や価値観の人とふれあい、自分を磨いてください。



筆者左から2人目 卓球部での集い

看護学科 第3学年 横井 万祐子

ご入学おめでとうございます!! 大学生活には慣れてきましたか? 大学生時代は実に自由で、なんでもできる時間とパワーがあると思います。

私は、授業はもちろんですが、それ以上と言ってもいいぐらい(笑)、部活動に打ち込んでいます。ともに学ぶ友達や、信頼できる先輩などもたくさんで、とても楽しく充実した毎日を送っています。大学生活は自分の人間性をさらに豊かにできるときだと思っています。みなさんもこの滋賀医大であらゆることに積極的に挑戦し、吸収してってください。



筆者中央 昨年の学祭から

看護学科 第2学年 野 添 弥 生

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。入学されて早2ヶ月、充実した学校生活を送っていますか?

私は大学2年目でまだまだ知らないことがほとんどですが、この大学に入って気づいたことは、みんな仲間意識が強いことです。人として、医療人を目指す者として、仲間は大切です。また、自分も誰かの支えになれば……それは幸せです。出会った仲間を大切に、今という瞬間を共に過ごしましょう。



筆者前列左から2人目

新任教員 紹介

眼科学講座 助教授就任挨拶

助教授 西田 保裕

平成18年3月1日付けで、眼科学講座助教授に着任いたしました。私は本学キャンパスが守山市から当地に移転した直後の昭和52年に、3期生として入学しました。卒業後、稲富昭太先生が当時教授をされていた本眼科学座に入局しました。早いもので、大阪出身の私が滋賀医大に来て30年、医師になって24年が経ちました。結婚を機に本籍も大津市に移し、今では公私ともにすっかり滋賀県人として地域に溶け込んでいます。滋賀医大出身であることを誇りに、これまで本学の診療・研究・教育に従事して参りました。

診療では本講座の伝統分野である斜視・神経眼科を専門としながら、他の眼科分野でも積極的に診療に携わって参りました。専門分野の診療として、斜視や眼球運動障害での外眼筋手術に積極的に取り組み、独自の術式も開発し良好な治療成績とともに他施設でもスタンダードな術式として評価されています。また神経内科、脳神経外科、耳鼻咽喉科など他科との連携も強化して神経眼科疾患の病態評価と内科的・外科的治療に取り組んでいます。

研究でも斜視・神経眼科をメインテーマにして取り組んでいます。MRIなどの画像診断装置を用いて、独自の眼球運動観察法の開発、麻痺性斜



視・固定内斜視・甲状腺眼症などの眼球運動障害の病態評価、斜視で重要となる両眼視機能中枢の脳皮質内での同定を行ってきました。今後もこの分野での研究を継続・発展させていくつもりです。

教育では眼科の知識や手技の指導に止まらず、現在の社会が我々医師に求めている「病態と医療内容を患者に明確に説明する能力」、「それに基づいた患者との信頼関係を構築する能力」を診療の原点として若手医師を充分指導していきたいと思っています。

そして、昨年本講座に赴任された大路正人教授の「明るく、楽しく、活発な眼科」を合言葉に、私もその一員として講座の発展のために今後更に頑張りたいと考えています。

(経歴)

昭和58年3月 滋賀医科大学医学部医学科卒業
昭和58年6月 滋賀医科大学医学部附属病院研修医
昭和63年3月 滋賀医科大学大学院医学研究科修了
昭和63年4月 近江八幡市民病院眼科医師
平成 3年4月 滋賀医科大学眼科助手

平成 5年8月 カロリンスカ研究所 フディング大学病院
眼科留学（文部省在外研究員）
平成 6年5月 滋賀医科大学医学部附属病院眼科講師
平成18年3月 滋賀医科大学医学部眼科学講座助教授

病理学講座 教授就任挨拶

教授 後藤 敏

2006年4月1日付けで病理学講座微生物感染症学部門教授に就任致しました。

私の生まれは岐阜で、鵜飼いで有名な長良川に程近い地で育ちました。小学生のときに数学の美しさに強く惹かれたことがきっかけとなって、最初は、理学部数学科に入学しました。しかし、大学生活を続けるうちに、生活時間のすべてを数学に捧げることに困難を感じ始め、医学部に転身することになりました。

私の専門は、ウイルス学です。被膜をもつウイルスが自身のゲノムを細胞内へ送り込むには、ウイルス被膜と細胞膜との膜融合という過程が必須です。その際に働くのがウイルス被膜上に存在する膜融合蛋白質です。この膜融合蛋白質は合成された直後には活性をもたず、宿主のプロテアーゼによって切れ目が入り初めて活性化されます。

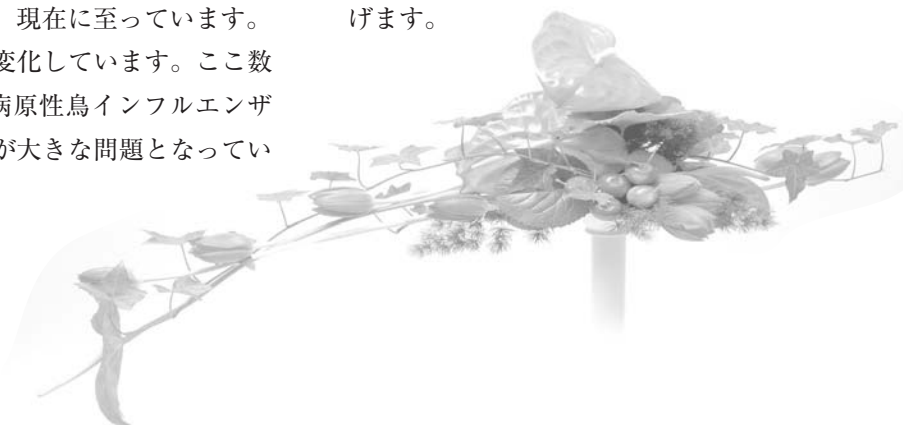
当時、全く明らかにされていなかったこの宿主プロテアーゼを生体から初めて単離同定し、ウイルスの病原性発現における意義を明らかにしました。その後は、宿主免疫応答に対するウイルスの回避機構の研究を開始し、現在に至っています。

感染症の現状は、常に変化しています。ここ数年、SARSウイルス、高病原性鳥インフルエンザウイルス等の新興感染症が大きな問題となっているのはご存じの通りです。



私の専門とするパラミクソウイルス科でも致死性脳炎を起こすニパウイルス（1998年）やRSV（Respiratory syncytial virus）に似た呼吸器ウイルスであるヒトメタニューモウイルス（2001年）が見いだされました。このような新しい感染症に対しての研究も開始しつつあります。今後、研究を通して得られる情報、成果を感染症対策、教育にも反映させていきたいと思います。

どうぞよろしくご支援、ご協力をお願い申し上げます。



（経歴）

昭和60年 3月 名古屋大学医学部卒業
平成元年 3月 名古屋大学大学院医学研究科修了
平成元年 4月 日本学術振興会特別研究員
平成2年 4月 名古屋大学医学部助手
（アイソトープ研究室）
平成4年10月～平成6年 3月 英国オックスフォード大学留学
平成6年 4月 福井医科大学医学部微生物学講座助教授

平成6年 4月～平成7年 1月 英国オックスフォード大学留学
平成15年10月 福井大学医学部助教授
（病因病態医学講座微生物学領域）
（福井医科大学と福井大学との統合による）
平成18年 4月 滋賀医科大学医学部病理学講座教授
（微生物感染症学部門）

地域生活看護学講座 助教授就任挨拶

助教授 川井 八重

平成18年4月1日付けで、看護学科地域生活看護学講座に着任いたしました。

滋賀医科大学は、高知県で保健所の保健師として就業しておりました頃から、近接分野である公衆衛生や地域医療、その他総合的な実績のある大学として、印象に残っておりました。まさかそこで自分が働かせていただくことになるうとは、現職の頃には夢にも思わなかったというのが実感です。

私が担当いたします在宅看護学は、地域で生活している人々を対象として、在宅療養者に看護を展開するという特性があります。さらに、要介護者を介護している家族や、育児中の家族など、健康な人々も対象に含まれるという特性も持ちます。すなわち、病院等の施設と利用者の居宅を結ぶ接点としての「継続看護」の実践や、さらに「訪問看護」などにおいて利用者の居宅における看護実践を担当するという、幅広い活動分野が必要とされます。

そのため、初回のみでの訪問で利用者と信頼関係を構築できる高いコミュニケーション能力や、一



般の家庭において専門看護職者としての職能を発揮できる高度な知識とスキルが要求されます。

滋賀医科大学においても、20年以上に及ぶ臨床経験と、高知大学において行ってきた教育・研究の経験を融合させ、地域生活看護学講座や、看護学科の他領域の先生方のご指導・ご支援をいただきながら、在宅看護学における学生の教育及び研究、さらには学内の諸活動に日々精進していく所存でございます。どうかよろしくお願い申し上げます。



(経歴)

昭和53年 3月 高知県立保健婦専門学院卒業
昭和53年 4月 高知県佐川保健所
平成11年 4月 高知医科大学看護学科助手
平成12年 4月 高知医科大学看護学科講師（在宅看護担当）

平成13年 3月 高知大学教育学研究科修士課程修了
平成17年 4月 高知大学看護学科助教授（地域看護学担当）
平成18年 4月 滋賀医科大学看護学科
地域生活看護学講座助教授

医学部附属病院治験管理センター 助教授就任挨拶

助教授 中 川 雅 生



平成18年4月1日付けで治験管理センター助教授を拝命いたしました。平成4年から本学小児科学講座で診療に携わっていましたが、平成14年に厚生労働省医薬品医療機器審査センターにおいて医薬品の承認審査に従事したことがきっかけとなり、平成15年から現在の治験管理センターで治験や臨床研究に関連した仕事をさせて頂くことになりました。

さて、治験という言葉に馴染みのない方や治験管理センターについてあまりご存じない方のため、この誌面をお借りして治験とはどういったもので、治験管理センターがどのような活動をしているか紹介させていただこうと思います。

治験というのは、薬剤の有効性と安全性を科学的に確認し、新薬としての承認を取得するために行なわれるものです。したがって、治験を実施することで新しい医薬品の開発が促進され、患者様への治療の選択肢が拡大されることとなります。現在の治験管理センターの主たる業務は、附属病院内で実施される治験及び臨床試験の支援とゲノムプロジェクト（正式には「個人の遺伝情報に応じた医療の実現化プロジェクト」）の推進です。製薬企業から各診療科に依頼された治験だけでなく、昨年から小児科と循環器内科で実施されている医師主導の治験も支援させていただいて

おります。先生方にご負担をかけずに科学的・倫理的に治験をすすめることが治験コーディネーターはじめ職員の使命と考えています。また、ゲノムプロジェクトは、文部科学省のリーディングプロジェクトに位置づけられる重要な研究です。将来の医療は、オーダーメイドとかテーラーメイドと呼ばれる個人の遺伝情報に応じたものになっていくことは必至です。これに参画し、推進するという誇りを持って取り組んでおります。

滋賀医科大学の中であって、治験管理センターはなくてはならない部門となりますようスタッフ一同日々努力を重ねていく所存でございますので、ご支援、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

（経 歴）

昭和54年 3月 京都府立医科大学医学部卒業
 昭和54年 6月 京都府立医科大学小児科研修医
 昭和57年 4月 京都府立医科大学小児科修練医
 昭和59年 4月 京都市西京保健所保健予防課医師
 昭和61年 4月 京都府立医科大学附属小児疾患研究施設内科部門助手
 昭和63年 4月 松下電器産業健康保険組合健康管理センター小児保健部主任
 平成 2年 4月 米国サウスカロライナ大学病理学教室留学
 平成 4年 4月 滋賀医科大学小児科学講座助手

平成 4年 8月 滋賀医科大学小児科学講座講師
 平成14年 8月 厚生労働省国立医薬品食品衛生研究所医薬品医療機器審査センター 臨床医学審査官
 平成15年 8月 滋賀医科大学小児科学講座講師
 滋賀医科大学医学部附属病院治験管理センター副センター長
 平成16年 4月 滋賀医科大学医学部附属病院治験管理センターセンター長
 平成18年 4月 滋賀医科大学医学部附属病院治験管理センター助教授

基礎看護学講座 講師就任挨拶

講 師 百 田 武 司

平成18年4月1日付けで、基礎看護学講座講師に着任致しました。本学は昨年、非常勤講師としてお世話になりました。その際、先生方や学生のみなさんの活気に満ちあふれる様子を身近に感じ、感銘を受けましたので、今回着任できましたことを、大変嬉しく思います。

私は、これまで、生活習慣病予防相談や、病院、介護老人保健施設、それに在宅介護支援センター等で看護実践に携わって参りました。いずれも脳卒中患者やそのハイリスク者を対象にすることが多く、脳卒中に関しましては、予防から急性期、回復期、さらに維持期に至るまでの、ほぼ全期間にわたるケアを経験して参りました。欧米では、専門看護師が脳卒中医療の現場に配置され、成果を上げています。わが国においても、医療の高度・専門分化、および患者のQOL向上に対応すべく、専門看護師・認定看護師制度がスタートし、高度専門職業人の育成に実績を上げていますが、現在、脳卒中看護においてはこうした専門看護職の育成は行われておりません。脳卒中ケアの専門性を有する看護師を、臨床現場に配置することによって、脳卒中患者のアウトカムが向上することが推測されます。従いまして、私は、脳卒中看護の専門性を追求するシステムや看護技術を開発し、さらに看護教育に寄与したいと考えます。また、脳卒中後遺症で多い運動機能障害は、基本的なケアが必要であり、私の経験を基礎看護学に取り入れて教育に活かしたいと考えます。



研究に関しましては、修士課程・博士後期課程とも、質的研究により脳卒中回復過程における病者の苦悩・苦痛体験に着眼して参りました。特にプロセスへの疑問を明らかにするために、患者の時間を経た体験やその変化と要因を追求して参りました。成果をいかに臨床に還元していくかということが質的研究の課題であり、今後はさらに量的分析も取り入れ、研鑽したいと存じます。

私は、非常勤講師以外、大学教員の経験はありません。大学は今、変革期にあり、教育・研究はもとより、大学運営への教員の参画が多様な形態で求められていると思います。初心者として、一步一步、着実に努力して参りますので、何かとご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、ご支援、ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(経 歴)

平成 8年 3月 広島大学医学部保健学科看護学専攻卒業
平成10年 3月 広島大学大学院医学系研究科修士課程
保健学専攻修了
平成15年 5月 広島大学大学院医学系研究科博士後期課程
保健学専攻修了
平成 8年 6月 翠清会梶川病院看護師（非常勤）
平成 8年10月 社会保険健康事業財団健康指導保健師（非常勤）
平成10年 3月 翠清会梶川病院看護師

平成11年10月 翠清会梶川病院主任看護師
平成15年 3月 翠清会梶川病院介護老人保健施設開設準備室長
平成15年 8月 翠清会介護老人保健施設
ひばり副施設長・看護部長
平成17年 4月 在宅介護支援センター
ひばりセンター長（同 兼務）
平成18年 4月 滋賀医科大学医学部看護学科
基礎看護学講座講師

キャンパス
ライフ

第31回 浜松医科大学との交流会



去る5月12・13日の2日間、浜松医科大学において第31回浜松医科大学との交流会が行なわれました。出発前の中庭での壮行会には約300名の学生が集まり、吉川学長から熱いエールをいただいて、バスに乗り込みました。

初日の野球の対抗戦では吉川学長による始球式が行われ、各種目の競技が始まりました。2日目はあいにくの雨天となりましたが、体育館ではバスケットボール、グラウンドではサッカー等の熱戦が繰り広げられました。

学長からのエールが奏功したのか、対戦成績は10勝5敗で、昨年に続いて総合優勝を勝ちとり、通算成績は本学が15勝13敗3引き分けとなりました。

第31回浜松医科大学との交流会を終えて

体育会 浜松医大との交流会委員長
医学科 第3学年 佐治 雅史

私は、今年度の浜松医科大学との交流戦で滋賀医大の委員長をさせて頂いたのですが、こういったかたちで多数の人を仕切るのは初めてだったので最初はどうしてよいか全く分からずに不安でした。

去年の9月から半年あまりハンドボール部の主将をつとめさせて頂いており、組織を微力ながらまとめる役目を担っておりましたが、今回はさらに大きな規模でのまとめ役でした。浜松医大との交流会は本校にとっても非常に大きな意味をもつイベントなので、ぜひとも成功させたいと思い、また浜医委員長を任された身として恥ずかしくないようにしようと一心不乱でした。

結果的には大きな事故等もなく、交流戦も勝利で終わってよかったと思っています。多くの人達の助けなくしては今回の成功はありませんでした。学生課の方々、体育会の方々、佐伯先輩、宮澤先輩、浜医の田村くん、本当にありがとうございました。



**滋賀医大
優勝**

10勝5敗

種目	浜松	滋賀
硬式庭球 男	○	7-2 ×
硬式庭球 女	×	0-3 ○
サッカー	○	2-1 ×
準硬式野球	○	9-4 ×
バスケットボール 男	×	33-38 ○
バスケットボール 女	×	36-62 ○
バレーボール 男	×	0-2 ○
バレーボール 女	×	0-2 ○
バドミントン 男	○	5-0 ×
バドミントン 女	×	1-4 ○
ボート	×	○
ヨット 470級	×	○
ヨット スナイプ級	×	○
ハンドボール	×	26-36 ○
剣道 男	○	7-6 ×
剣道 女	○	7-6 ×
空手道	中止	中止
ゴルフ	×	362-361 ○

総合結果
浜松 5 対 10 滋賀
通算 15勝13敗3引き分け

平成18年度 新入生研修

4月の6・7日の両日、近江八幡休暇村等において、平成18年度の新入生研修が行われ
医学科、看護学科の新入生及び引率教職員総勢180名余が参加しました。

初日、研修会場に到着後から大自然の中での飯盒炊爨が始まり、班別懇談会や人権学習、
陶芸体験など中身の濃い2日間となりました。

有意義だった新入生研修

看護学科 第1学年 後藤 裕美



入学して3日、知らない人たちとの合宿に私は
不安でいっぱいでした。

しかし、いざ合宿が始まると、それまでの不安
は消えて本当に楽しく2日間を過ごすことが出来
ました。

私が、この合宿で一番印象に残っていること
は、飯盒炊さんです。入学後は普段関わることの
少ない医学科の人達と同じ班になれたことで、多
くの人と知り合うことができました。

夜は一つの部屋に多くの人が集まって自己紹介
をしました。何度も何度も繰り返したので疲れて
しまいました。ですが、この自己紹介のおかげも
あって合宿研修が終わる頃にはクラスの約半数の
人を覚えることができました。

この合宿はこれからの学生生活を送る上で、と
ても有意義なものになったと思います。



研修旅行を終えて

医学科 第1学年 西 正 智



滋賀医科大学に入学して4日。

初めての合宿研修。日程表を見ても飯盒炊爨に
始まり班別懇談会やフリータイム、挙句の果ては
陶芸なんて書いてあり、「こんな時間設けんでも
いいのに、ほんま迷惑な話やなあ。」というのが
僕の第一印象でした。しかし、たった2日間の宿
泊研修は予想外に充実していました。

様々な講義を受けて、しかも興味ある内容でし
た。それにより自己管理が求められる大学生の責
任の重要性を改めて感じました。そして何よりも
飯盒炊爨や宿泊部屋での新しい仲間との会話では
友人がたくさんでき、これからの大学生活への最
高の布石を打たせてもらうことが出来たと感じま
した。ほんとうに、ありがとうございました。



新入生研修を終えて

医学科 第1学年 本田 愛由子



少し肌寒い中、お天気に恵まれてバスは休暇村へと出発しました。

前日の新歓で始めから少し疲れ気味でしたが、湖畔のきれいな空気を吸うと、疲れはどこかに消えてしまいました。

到着してすぐにカレー作りにとりかかりました。森の中で作ったカレーの味は格別でした。夜には医学科、看護学科の女子が一つの部屋に入りきらないほど集まり、自己紹介を含めてたくさん話をしました。浪人してやっと大学生になれた私にとってこんな経験は久しぶりで、大学生になれた喜びを実感しました。夜遅くまで会話は途切れませんでした。

また、合宿中には人権学習、感染症予防、交通事故の防止、マルチ商法などについての講義を受けました。特に印象に残ったのは、交通事故の防

止についての講義で、交通事故の写真をしたり、自分が万が一事故を犯してしまった時についての話を聞くと、医学生として、身が引き締まる思いでした。

陶芸ではお互い助け合いながらそれぞれの作品を作りました。40日後の焼き上がりが楽しみです。

医学科女子の人数はそう多くはありません。しかし、それがかえってみんなで仲よくなる事ができ、2日間という短い間に前からいた仲間のように接するようになりました。帰りには「もう1回来てあのおふろにはいたいなあ」「もうちょっと居ときたかったなあ」というほどでした。この仲間たちと過ごすこれからの6年間が楽しみでたまりません。



新入生合宿研修を終えて

看護学科 第3学年 大八木 三鈴



私は新入生研修の中に合宿があると知った時、嫌でたまらなかった。また、みんなもそうだったと思う。時期的に考えても、入学式の2日後に新入生全員で合宿なんて…この学校は何を目的としているのだろうと思った。

そして、班のわけ方も編入生ばかりの班ではなく、1回生の医学科、看護科と混ざり合っていて、「絶対、編入生浮きます!!」と宣言したいくらい不安だった。

けれど、終えてみると、とても楽しい2日間だったと思う。

まず、合宿先に着いてすぐの飯ごう炊さんでは、班員全員で協力しなければならない。そのた

め、全く知らなかった班員とも、自然と会話をすることができた。そして、みんなで何か1つのものをつくりあげたという達成感は、お互いの友情を育んだように感じた。

また、そのほかの時にも、まだ仲の良いグループができていないため、特にグループで固まるということが少なく、近くにいる人と気軽に話すという雰囲気、色々な人と話すことができ、仲良くなることができた。

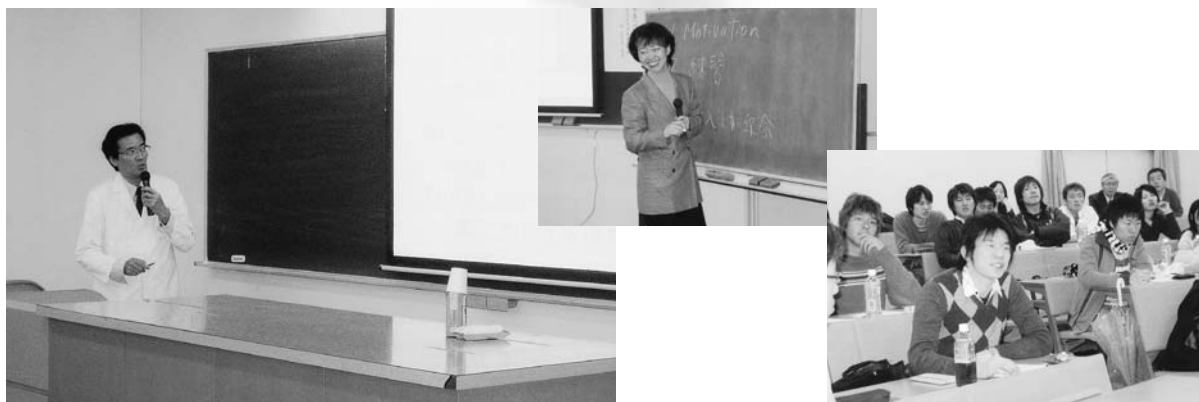
はじめは不安でたまらなかった大学生活も、意外とこれから楽しむことができるかなと感じることができた合宿だった。



リーダーズ研修

本学ではサークル活動を有意義に発展させるため、リーダーとしての自覚と認識を高めると共に、各サークルの相互理解を深めることを目的とし、3月1日(水)の13時からリーダーズ研修を実施しました。体育会系、文化会系の各課外活動団体の代表者(キャプテン)34名と班別討議でのアドバイザーとして永田学生生活支援室長他6名の教員が参加しました。

研修は馬場副学長の開講挨拶にはじまり、本学第2期生の江口豊教授救急集中治療医学講座による急性アルコール中毒に関する講演や同じく第12期生の朴真紗美氏による「大学生へのアドバイス」と題したご自身の経験を踏まえた講演がありました。また班別懇談会では自ら提案したテーマについて各班で現状や問題点について話し合うなど充実した研修内容の半日間となりました。



平成17年度 滋賀医科大学リーダーズ研修に参加して

文化会会長 医学科 第4学年 川口 剛 史

さる、3月1日(水)の午後から私たちにとっては初めての試みである(大学としても久しぶらしい)リーダーズ研修に参加させていただきました。

研修会は多方面の先生方のお話・講演にはじまり、小グループにわかれての討論会や、最後は福利棟食堂での交流会と、(長丁場で少し疲れましたが)充実したプログラムでした。

実施された中でもっとも印象に残っているのは文化会構成団体の代表が集まって行った討論会で



筆者中央左

す。普段は話し合いをする機会が少ない私たち文化会の面々も、この日は「どうすれば文化会を盛り上げられるか」などのテーマについて意見を交わすことができました。また、その後それに基づいた取り組みを行なったことが、結果として本年度の文化会所属学生数が増加した大きな要因のひとつだと思います。今後も、大学でのクラブ活動の活性化に役立つ、このような研修会が開催されることを期待いたします。

第92回 保健師国家試験の結果について

平成18年2月24日(金)に実施された、第92回保健師国家試験の合格発表が、3月28日(火)午後2時から行われ、その結果は次のとおりでした。

	卒業 者	受 験 者	合 格 者	合 格 率	備 考
新 卒 者	69 名	68 名	63 名	92.6 %	合格率 (全国) 78.7 %
既 卒 者		4 名	3 名	75.0 %	
計		72 名	66 名	91.7 %	

参考 前回第91回 保健師国家試験の結果について

	卒業 者	受 験 者	合 格 者	合 格 率	備 考
新 卒 者	66 名	66 名	62 名	93.9 %	合格率 (全国) 81.5 %
既 卒 者		2 名	1 名	50.0 %	
計		68 名	63 名	92.6 %	

第95回 看護師国家試験の結果について

平成18年2月26日(日)に実施された、第95回看護師国家試験の合格発表が、3月28日(火)午後2時から行われ、その結果は次のとおりでした。

	卒業 者	受 験 者	合 格 者	合 格 率	備 考
新 卒 者	69 名	59 名	55 名	93.2 %	合格率 (全国) 88.3 %
既 卒 者					
計		59 名	55 名	93.2 %	

(注) 新卒者中10名は3年次編入学者で、既に合格済み。

参考 前回第94回 看護師国家試験の結果について

	卒業 者	受 験 者	合 格 者	合 格 率	備 考
新 卒 者	66 名	56 名	56 名	100.0 %	合格率 (全国) 91.4 %
既 卒 者					
計		56 名	56 名	100.0 %	

(注) 新卒者中10名は3年次編入学者で、既に合格済み。

第100回 医師国家試験の結果について

平成18年2月18日(土)、19日(日)及び20日(月)に実施された、第100回医師国家試験の合格発表が3月29日(水)午後2時から行われ、その結果は次のとおりでした。

	卒業 者	受 験 者	合 格 者	合 格 率	備 考
新 卒 者	94 名	94 名	88 名	93.6 %	全国 受験者 8,602名 合格者 7,742名 合格率 90.0 %
既 卒 者		4 名	2 名	50.0 %	
計		98 名	90 名	91.8 %	

参考 第99回 医師国家試験の結果

	卒業 者	受 験 者	合 格 者	合 格 率	備 考
新 卒 者	105 名	105 名	101 名	96.2 %	全国 受験者 8,495名 合格者 7,568名 合格率 89.1 %
既 卒 者		5 名	5 名	100.0 %	
計		110 名	106 名	96.4 %	

比叡山延暦寺の滋賀医科大学霊安墓地のボランティアによる清掃実施

3月16日(木)にしゃくなげ会会員有志の方々と学生有志および学生課職員により比叡山延暦寺の滋賀医科大学霊安墓地の清掃がおこなわれました。

今回はサッカー部の有志として、解剖実習を終えたばかりの医学科第2学年、太田登博君、真田陸君、富田行則君、白晋君の4名の学生が参加されました。

当日は、肌寒さも残る早春の山の中にもかかわらず、参加者全員により墓地周辺の清掃、草引きを中心に精力的に行ないました。その後、昼食時には学生の自己紹介があり、しゃくなげ会員の方々から、献体についてのお考えや人生観をうかがうなどの交流がおこなわれました。



墓地清掃に参加して

医学科 第3学年 富田 行 則

今回、私達はサッカー部の仲間合計4名でしゃくなげ会の方々と墓地清掃に参加させていただきました。

私達は今年の2月に解剖学実習を終えたばかりであり、御献体くださった方々、また御遺族の方々への感謝の気持ちを込めて清掃させていただきました。また、しゃくなげ会の方々と清掃中や昼食の時に話す機会を得、普段聞くことのできないことを聞いたことは私達にとって非常に貴重な体験となりました。ありがとうございました。

また機会があれば参加させていただきたいと思います。



サークル紹介

美術部

滋賀医大に美術部なんてあったの？(というのが正直なところでしょうか) 実はあるんです。

2年前に私が入学した当初、まったく同じ質問をしてしまったのを覚えています。そのころは新歓も部活紹介もしていなかったのも、まさかこの大学に美術部があるなんて夢にも思いませんでした。しかし、かれこれ2年経ち、今や部員は30人近い大所帯となっております。美術部がいつから存在して、OBさんが何人いらっしゃるかは残念ながら把握していませんが、来るもの拒まず、去るもの追わずといったバランスを保ちながら、かつてないほどの規模にふくれあがっているのではないかと思います。

美術部が存続し、こうしてアート活動ができるのも、すべては前部長であった三好さんのおかげであるといっても過言ではありません。三好さんは廃部寸前の中でもずっと美術部を守り続けてくれました。それにはひとつの願いが込められていました。「この学校は体育会の部活が盛んでしょう。みんなひとつの価値観に向かってがんばることは得意だと思うの。だから美術部ではたくさんの価値観に触れてほしい。」という言葉をはくは今も覚えています。アートを通してさまざまな価値観と出会い、他人と自分の違い感じたり、新しい自分を発見したりしてほしいという願いでした。

美術部代表 医学科 第3学年 真田 陸

現在、美術部員のほとんどは兼部者で、私もサッカー部と兼部しています。確かにスポーツの世界では勝つという目標に向かって組織を統率するので、必然的に価値観は狭まっ



てしまうように思います。そのうえ、医学部だけの大会に参加することが多く、結果、みなさんも一般の大学生とはかけ離れた世界にいるような気になったりはしませんでしょうか。美術部員の中にはこうした日常に風穴を開けるべく、入部してくれた人もたくさんいます。

最後に活動内容と予定をざっと紹介します。油彩、水彩、陶芸、彫刻はもちろん、映画鑑賞や美術館めぐりなどを行っております。特に油彩、彫刻、陶芸は、となりの東大津高校の美術部に混ぜてもらって、顧問の先生の指導もうけることができます。そのほかにも部員のアイデア次第でおもしろイベントが盛りだくさんです。この機会に、もし興味を持った方がおられましたら、福利棟2階の談話室（一部いちおう美術部室）にお越しください！



インフォ
メーション

第29回 解剖体納骨慰霊法要



去る5月27日(土)午前10時30分から、新緑が鮮やかな比叡山延暦寺阿弥陀堂において、御遺族、御来賓、しゃくなげ会会員及び学生、教職員約400名が参列し、延暦寺長騰即真尊龍大僧正を大導師として慰霊法要が厳粛に執り行われ、故人の御冥福をお祈りしました。

今回お祀りした36名の御霊に対し、吉川学長が、故人の御篤志に感謝され、今後とも人々の健康を守るべく、特に地域の方々に真心のこもった医療を提供するために懸命の努力を払っていくとの今後の決意を述べられた。続いて、学生代表として医学部3学年の瀬戸克年君が、尊い御遺体を御献体くださった故人と御遺族に感謝し、社会に貢献し、人間として信頼される立派な医師になることを御霊前に誓いました。

法要終了後、その場で引き続き文部科学大臣の感謝状が御遺族代表に贈呈され、学生の手で御遺骨が返還されました。

また、午後からは、比叡山横川の大学霊安墓地において、御遺族、御来賓、学生等の参列の下に、納骨式が執り行われ、分骨した御遺骨が納骨堂に安置されました。



平成17年度 卒業式

平成17年度本学卒業式が、去る3月25日(木) 午前10時から体育館において挙行され、学長から次のとおり告辞がありました。

告 辞

学 長 吉 川 隆 一

ご来賓の皆様、ご父兄の皆様、ならびに教職員の皆様、本日はご多忙の中、平成17年度滋賀医科大学卒業式にご列席を賜り、まことに有り難く存じます。更に、25年前に本学を卒業された2期生の先生方にもご列席頂き、心より御礼申し上げます。

医学科94名、看護学科69名の卒業生諸君、晴れてご卒業の日を迎えられましたことに心よりお喜び申し上げます。また、彼らの学生生活を長く支えてこられたご家族の方々に深く敬意を表しますと共に、心からお祝い申し上げます。卒業生諸君には多くの人々の協力があって成就出来た卒業であることを自覚し、感謝の気持ちを忘れないで下さい。

昨年、私の友人である三浦捷一君、43年前に一緒に大学を卒業した同級生で、産婦人科の医師をしていた男ですが、肝臓がんが原因で亡くなりました。「がん戦記—末期がんになった医師からの遺言」と題する本を昨年10月に講談社から出版した直後のことでした。7年間に及ぶ闘病生活を書き綴った書物ですが、患者になって初めてがん治療の現場が患者不在であることに気づき、その改善を求めて2千人が集まった「第一がん患者大集会」を開催するに至った経緯が書かれています。36年間医療人の目線で医療に従事してきた彼が、7年前からは患者の目線で医療を見ることになり、患者の自己決定権や生存権が脅かされている医療の現状と格闘した記録であります。正に戦いの記録ではありますが、出版と同時に訪れた死によって彼の戦いは終わりました。

諸君は医療人としての専門的知識と技を身に付け、明日から医療の世界へ専門家として参画するわけですが、一旦医療界に入ってしまうと専門家集団の世界を作ってしまう、「医療は誰のためにあるのか」という原点を忘れがちです。医師、看護師にとっては多数の患者さんが相手ですが、患者さんにとっては自分独りの人生、命がかかった医療であります。作家の柳田邦男氏は、その著書



の中で、「医療人には人間に興味を持ち、人間を見る眼を成熟させてほしい、即ち、人間を見る眼を耕してほしい」と医療人への希望を述べておられます。そして、そのためには何よりも「患者さんとの会話を大事にすること」、「患者さんがそれぞれの人生、生涯という物語を生きている一人の人間であること」を理解してほしい、と結んでおられます。医療の現場で遭遇する患者さん一人一人に、それぞれの人生が背後にあることをしっかりと受けとめ、「もし、自分が患者だったら?」といった想像力をも養って頂けるよう、そして多くの患者様から信頼される医療人となられるようお願いしております。

さて、諸君の中には将来研究者、教育者の道を歩みたいと考えておられる方がいると思います。諸君の先輩でこうした道を歩み、立派な成果を上げられた先生が数多くおられます。これまで、3名の卒業生が本学の教授に、11名の卒業生が他大学の教授に就任されております。本学卒業生が研鑽を積み、その成果が、特に外部から高い評価を得られていることは喜ばしい限りであります。大学教授だけでなく、地域医療に貢献されている卒業生も多く、また、市中病院で研鑽された成果が国際的に高い評価を受けている卒業生もおられます。滋賀医科大学の卒業生は優秀です。卒業生諸君、「自信と誇りを持って」歩み始めて下さい。

諸君の将来が輝かしからんことを祈念して、告辞と致します。

平成17年度 学位論文学長賞について

博士論文学長賞



平成17年度に学位記（博士）を授与された者の中から、特に優秀な学位論文を発表した1名に、3月24日（金）の学位授与式において吉川学長から表彰状と副賞が授与されました。

受賞者名	学位論文題目
神谷 篤	A schizophrenia-associated mutation of DISC1 perturbs cerebral cortex development.

修士論文学長賞



平成16年度に学位記（修士）を授与された者の中から、特に優秀な学位論文を発表した1名に、3月24日（金）の学位授与式において吉川学長から表彰状と副賞が授与されました。

受賞者名	学位論文題目
高田 直子	培養筋管細胞は加圧刺激によってサイトカイン遺伝子を発現する

西門バス停移動

平成18年4月22日(土)より、
滋賀医科大学西門のバス停留所(医大病院方面行のみ)を現在の位置から南へ100メートル移動しました。

これまでは、学内に入構する歩行者と車両が一部で交差し、危険なことがありましたが、バス停の移動により安全性が増しました。

なお、瀬田駅方面行のバス停留所は移動いたしません。



附属病院玄関前へのバス乗り入れ開始

附属病院では4月20日(木)から、
病院玄関前への路線バス(帝産バス、近江バス)の乗り入れが開始しました。
病院玄関のすぐ側にバス停留所ができ、来院される患者さま、ご家族さまには大変便利になりました。



編集後記

平成18年度の新入生歓迎号「勢多だより」No.72が完成しました。ご執筆戴きました先生方と学生の皆さんのお陰で、今回も多彩な誌面になりました。ご多忙のところ、編集雑務に関わって頂いた皆さんのご苦勞に感謝いたします。

さて、本誌の記事の中で、文化会会長の研修報告と美術部部長のサークル紹介文は編集者にとって思いがけない嬉しいニュースでした。

3月に実施した「リーダース研修」は、文化会活動を盛り上げる成果に繋がったようで、今年は文化会所属学生数が急増したとのこと。また、“風前のともしび”となっていた美術部が今や部員30名近い大所帯に成長してアート活動を展開していると。

浜松医大との交流会では、今年も総合優勝を果たした体育会系の活気あるサークル活動との落差が少しずつ縮まることを願って、文化会系サークルにエールを送ります。今年の若鮎祭では是非その成果を発揮してください。

編集長 今本喜久子

●勢多だよりの由来●

勢多は勢田、世多、瀬田とも書かれるが、古代、中世の文献では、勢多が多用されている。それに勢多は「勢（いきおい）が多い」という佳字名称である。従って、いきおいが多かれと願う本学関係者の想いにぴったりということで、瀬田とせずに、あえて勢多とした。

（題字は脇坂行一初代学長による）

勢多だより No. 72

発行年月日：平成18年6月30日

編集：「勢多だより」編集担当者会議

発行：滋賀医科大学広報委員会



学章の説明

「さざ波の滋賀」のさざ波と「一隅を照らす」光の波動とを組み合わせたもの。

「中心に向かって、外からさざ波の波動－これは人々の医への期待である。外に向かって中心から一隅を照らす光の波動－これは人々の期待に返す答えである。」